

## はじめに

群馬は水源県である。峰から発した水が集まって沢になり、沢が集まって川になる。川は平野を潤し、やがて海に注ぐ。山頂直下に発した一条の流れが大河となつて海に注ぐまでの旅路には悠久の自然を感じる。川のみなもとを訪ねる旅路は探求心を誘う。滝を登り、碧い水を湛えた淵や瀨を越え、遡るにつれて流れが次々と分かれて水が少なくなり、最後の一条を辿ると峰に達する。源流には通常道がなく、人が訪れないので秘境的要素が残っている。整備されている登山道を歩くのと違って探検的な面白さがあり、それが今日まで私が源流に惹きつけられてきた理由である。

大きな川では途中で泊まる必要があり、溪谷で一夜を過ごすことでより自然に親しむことができる。以前はテントや寝袋など装備が重かつたので荷物を少なくするため幕営用具を持参せず、寒いので朝まで火を絶やさないよう一晩中焚火をして夜を過ごしたこともある。焚火の脇にごろ寝して星空を見上げたのは懐かしい思い出である。

少年の日、その一つである渡良瀬川の水源を訪れたことが切っ掛けになり、川の源に興味を持った。以来、折々の機に各地の水源を探訪して半世紀になる。改めて群馬の川について調べた

ところ、多くの水源を訪ねていたことに気付いたのでこれまで私が辿った群馬の主要な川について水源紀行をまとめた。

川の源流域は自然が残っているところが多く、水源紀行を通じ群馬の自然を知る機会になると思う。国立公園や自然環境保全地域では群馬県による学術調査が行われている箇所が多く、地形・地質・植生・動植物等について報告書が作成されている。一部については一般読者向けの要約書が出版されているので参考にしていただきたい。

# 目次

はじめに

第一章 群馬の川…………… 3

一 群馬の水系…………… 3

二 群馬の主要な河川…………… 5

三 水源紀行にあたって…………… 11

第二章 利根川上流水系…………… 18

一 水長沢…………… 18

二 檜俣川狩小屋沢…………… 29

三 宝川…………… 35

四 湯檜曾川…………… 40

二	長	笹	川	.....	114
一	白	砂	川	.....	106
第四章 吾妻川水系					106
六	根	利	川	.....	101
五	栗	原	川	.....	90
四	泮	川	.....	80	
三	塗	川	.....	76	
二	笠	科	川	.....	71
一	片	品	川	.....	66
第三章 片品川水系					66
七	薄	根	川	.....	60
六	赤	谷	川	.....	53
五	谷	川	.....	45	

三	温川	120
四	万川	124

第五章	烏川水系	131
-----	------	-----

一	鳥川	131
二	碓氷川	137
三	霧積川	142
四	南牧川	147
五	鮎川	152
六	神流川	156

第六章	渡良瀬川流域	162
-----	--------	-----

一	渡良瀬川	162
二	桐生川	174

第七章 只見川水系……………181

一 猫又川……………181

あとがき……………186

参考文献……………188

著者略歴……………193